愛媛県におけるイラカザトウムシ（クモガタ綱ザトウムシ目）の染色体数の地理的分化

○鶴崎展巨・小川弘展（鳥取大・地域）

　イラカザトウムシ*Gagrellopsis nodulifera* Sato & Suzuki (カワザトウムシ科) は山形県以南の本州・四国・九州の山地にふつうのザトウムシである。本種の染色体数は地理的に激しく分化し，鳥取・兵庫県内のみで2n=14～24の幅で変異する。また，染色体交雑帯ではヘテロ接合核型に強い負の選択がかかることもわかっている (Tsurusaki *et al.* 1991; Gorlov & Tsurusaki 2000)。しかし，ザトウムシとしては季節はずれの5〜6月に成熟するため，他の地域の集団については調査は不十分である。2013年に愛媛県各地の10地点で染色体を調査したところ，染色体数は東から西に2n = 16（橡尾山，黒森峠，井内峠，天狗高原），2n=18（楢原山，高縄山，三坂峠，大野ヶ原，鬼ヶ城山），2n = 20（サレガ峠）と変異することがわかった。井内峠と三坂峠は約7 km，三坂峠とサレガ峠は約5 kmしか離れておらず，それらの中間で染色体交雑帯が見つかる可能性が高い。愛媛県では2015年に追加調査をしたので，その予備的結果についても報告する。